

受け継がれ百年

次世代へつなぐわが町の伝統芸能

今年も愛南町で、農作物の収穫を感謝し、五穀豊穣を祈願して秋祭りが盛大に行われました。御荘町史や一本松町史によると、かつてはそれぞれの地区が異なった日に秋祭りを行っていました。祭り当日は年に1度のご馳走を作り、他地区の親戚知人を招待していました。それは楽しい反面、農家などには経済的・時間的に多大な失費となったため、大正3年(1914年)、当時の横山裏郡長の提案に郡内各町村が応じて、明治天皇の誕生日である11月3日に統一され、現在に至っているとのこと。

第100回という節目を迎えた今年の統一秋祭りは、あいにく雨に見舞われましたが、天候不良に負けることなく、町内各地区では四ツ太鼓、牛鬼、唐獅子などが繰り出し、大きなかけ声、笛や太鼓の音色が終日響き渡っていました。各地区の秋祭りの様子をご紹介します。

正木地区 五ツ鹿踊り





八幡神社(御荘平城)
石野春樹宮司にお話を伺いました。

祭り当日は、残念ながら雨模様で渡御の実施が危ぶまれましたが、参加者のご尽力もあり、御荘地域でも統一秋祭りを何とか無事に終えることができました。

今年は、伊勢神宮の20年に1度の御遷宮、出雲大社の60年に1度の御遷宮があり、奇しくも、愛南町で秋祭りの開催日が11月3日に統一されて100回目を迎えた節目の年と重なりました。

御荘町史によれば、大正3年から11月3日を統一秋祭りとしたそうですが、もちろん郡内のお祭りには、それ以前からの長い歴史があります。当社では統一100周年を1つの節目として、昨年から統一祭の広報ポスターを作成して県内をはじめ県外にも掲示しました。マイク放送による練り物の紹介や、女性のみのお祭りの運行など、新しい試みも好評価を得ました。また、平城商店街には地区のご協力により、愛媛県神社庁から頂いた日本国旗70本が美しく掲揚されました。

何事も私ども神職一人が気張ったところで成し得ないことであり、今回に限らず今までもたくさんの人たちのご尽力の上に成り立ってきたことだと改めて感じました。

さて、祭りに関わる全ての人が切実に感じているのは、人口減少、少子高齢化のことではないでしょうか。特に五ツ鹿踊りや唐獅子の踊り子、四ツ太鼓の乗り子など、お祭りには子どもたちの参加が不可欠です。踊りは一度なくなってしまうと復活することが非常に難しく、乗り子がいないとその地区の出し物がなくなり地区全体が不参加となってしまいます。御荘に限っていうと、参加者は各行政区に頼っていますので、組入りが前提になっているようです。このため、組入りにない特に若い世帯に参加してもらえないジレンマがあり、今後解決していくべき問題でもあります。

普段から衣食住に不自由なく、どこにでも行ける現代においては、1年に1度神様をお迎えし、神人一体となって豊作・大漁を願ってきた先人たちの記憶は薄れているかもしれません。ただ、私には、毎年お祭りに関わってきて分かったことがあります。お祭りに参加した皆さんは新たな魂を頂いたように、清々しく、生き生きと帰って行かれます。お祭りにはそういう力があるということです。ご先祖様たちが大切に守ってきたこの素朴なお祭りを、これからもさらに賑やかに継承していきたいものです。



祭りを活性化させたいという思いで石野宮司が発案した女神輿が今年初めて運行されました。



岩水地区 子ども神輿



福浦地区 神輿と四ツ太鼓



城辺下組 唐獅子



菊川地区 唐獅子



城辺中組 唐獅子



久良(大寿浦)地区 へと踊り



魚神山地区 神輿



家串地区 荒獅子



馬場地区 牛鬼



外泊地区 神輿



深浦地区 神輿



僧都地区 お伊勢踊り



船越地区 五ツ鹿踊り



長月地区 四ツ太鼓



満倉地区 牛鬼



福浦地区 三番叟



柏地区 神輿



長崎地区 大天狗



家串地区 相撲練り

子どもの頃に指折り数えて
 待らわびた秋祭りば、
 遠く離れた異郷にある方々にとっては
 懐かしい思い出であるように、
 すべての人々にとっても喜びと安らぎを
 与えてくれる素朴で力強い文化です。
 このすばらしい文化が
 長きにわたり継承されてきた陰には、
 労を惜みず、正確な所作などを
 次世代へと伝承してきた人たちの
 存在があることを
 忘れてはなりません。